

法政大学キャリアデザイン学会 研究会 2025年度

研究報告テーマ

「よい質的研究」とは何か

—SCAT、TEM の紹介を通して考える—

2025年

7月24日(木)

19:00~20:30

@Zoom によるオンライン開催

7月18日(金)
申込〆切

質的研究の手法としては近年、特に M-GTA が多用されていますが、それ以外にも様々な分析手法が開発されています。今回は、SCAT (Steps for Coding and Theorization)、TEM (Trajectory Equifinality Modeling : 複線径路・等至性モデリング) などの手法を用いて、幼児教育学の分野で質的研究を手がけられてきた中坪史典先生に、これらの手法の紹介を通して「よい質的研究」のあり方についてお話しいただきます。

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士(教育学)。琉球大学、明星大学等を経て現職。保育実践のフィールドワークを中心に、保育者の専門性の探求、保育カンファレンスや園内研修のデザイン、子どもの生活や遊びに関する研究を行っている。

〈主な業績〉

- ・中坪史典・加藤望・肥田武・内田千春 2024「保育者の実践知を探索する質的データ分析法としての SCAT」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要(教育学研究)』, 第5号, 148-156頁(共著)
- ・李睿苗・大道香織・加藤望・前田寛子・若松美沙・上川多恵子・中坪史典 2023「なぜ B 氏は特別支援学校教員として定年退職まで働き続けることができたのか—複線径路等至性モデリング(TEM)による分析—」『幼年教育研究年報』, 第44巻, 5-16頁(共著)
- ・中坪史典・濱名潔・淀澤真帆・加藤望・田島美帆 2019「質的データ分析法としての SCAT とうえの式質的分析法の比較—幼稚園長のインタビューデータから—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』, 第67号, 57-64頁(共著)



広島大学大学院
人間社会科学研究科 教授

中坪史典 先生



お申し込みはこちらのQRコードから

<https://forms.gle/CjKwSFA8s3xY2YZ18>

研究会運営委員：久井英輔